

2021年5月20日



各位

株式会社 F R O N T E O
代表取締役社長 守本正宏
(コード番号：2158 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 管理本部長 上杉知弘
電話番号 03-5463-6344

2021年3月通期予想値と実績値との差異、
営業外費用（訴訟損失引当金繰入額）、特別利益（新株予約権戻入益）
の計上に関するお知らせ

2020年5月20日に公表いたしました2021年3月期通期連結業績予想値と本日公表の実績値との差異、営業外費用及び特別利益の計上に関しまして下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2021年3月通期予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,000	200	97	10	0.26
実績値 (B)	10,370	507	330	359	9.33
増減額(B-A)	△630	307	233	349	
増減率 (%)	△5.7	153.5	240.2	—	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	10,470	△844	△992	△929	△24.37

(差異の理由)

2021年3月期通期の業績につきましては、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益が前回公表した予想値を大幅に上回りました。これは、当社グループが前期から着手しているAIを主体としたビジネスモデルへのポートフォリオトランスフォーメーションをさらに加速させ、AIソリューション事業を展開している各分野において営業活動を推進した結果であり、具体的には以下の理由によります。

- (1) ライフサイエンス AI 分野においては、複数の大手企業とのパートナーシップが加速し、新たなコア事業として経営基盤を構築いたしました。大型案件のマイルストーンブイの獲得や論文探索 AI システム「Amanogawa」が製薬企業において普及したこと等により、売上高が大きく伸長し、収益化が進展いたしました。
- (2) ビジネスインテリジェンス分野においては、企業の DX の推進を背景に、不正の早期検知のためのオンラインコミュニケーション監査システムや、顧客との営業応接記録を法令や社内規程に基づいて解析するコンプライアンスチェックソリューションを拡販した結果、特に金融分野において、複数の大型案件を獲得いたしました。
- (3) 前期に実施した米国子会社において、人件費やオフィス費用の削減等のコスト最適化が寄与いたしました。

2. 営業外費用（訴訟損失引当金繰入額）の計上

当連結会計年度において、当社の連結子会社（孫会社）である、FRONTEO Philippines, Inc. にて、2018年3月期に実施した事業改革に関連した労務紛争等について、訴訟損失引当金繰入額 64,933 千円を営業外費用として計上いたしました。

3. 特別利益（新株予約権戻入益）の計上

当連結会計年度において、ストックオプションとして発行した新株予約権の行使期間満了に伴い、新株予約権戻入益 66,152 千円を特別利益として計上いたしました。

以上